毎週月曜日更新

カタカタ通信

第２０２号

「探す楽しみ」

２０２５年１１月１０日

　コウノトリたちにはこのところ、いつもの給餌方法とは別に、少し工夫をした方法でもエサを与えることがあります。

　この夏には、くりぬいた丸太の中に砕いた氷と魚を入れて設置してみました。コウノトリはくちばしで氷をつついたり、のぞき込んだりしながら、中に隠れた魚を探して食べていました。氷が溶けていくにつれて魚が少しずつ現れるため、長い時間にわたって関心を持って取り組む様子が見られました。

砕いた氷とワカサギが入っています

１時間近く楽しんでいるときもあります

　涼しくなってきてからは、体を冷やさないように氷は使わず、丸太の中に魚を入れて、上からチガヤをのせてふたをする方法に変えています。コウノトリは見えていない魚を探そうと、くちばしでチガヤをつまんでどかしたり、中をのぞき込んだりして魚を見つけ出します。その動きは、野外で草の間や泥の中から獲物を探すときの様子によく似ています。

チガヤをのせて隠してみました

魚が見えなくてもチガヤをのけてゲット！

こうした工夫は、「コントラフリーローディング」という動物行動学の考え方に基づいています。動物には“すぐに手に入るエサ”よりも、“少し手間をかけて得られるエサ”をあえて選ぶことがあり、 探して得ることそのものが刺激や満足につながるといわれています。丸太やチガヤを使った給餌は、くちばしを使った探索や採食行動を引き出す「環境エンリッチメント」のひとつで、日々の暮らしの中に新しい刺激や変化を与える取り組みでもあります。

この給餌方法は決まった時間ではなく、タイミングを変えて行っていますが、ときどきコウノトリが丸太の前に立ってじっとしていることがあります。コウノトリたちがこの時間を待ちわびている…なんてことはないかもしれませんが、ちょっとした楽しみになっていたらいいなと思います。

アピールなのかな？チェックなのかな？

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：ほっぴー